

想 町内3中学校卒業式
思い出詰まった母校から涙の巣立ち

共に支え合い、歩んできた仲間との最後の学校行事である卒業式が、3月13日に町内3中学校で行われました。保護者や在校生から温かい拍手で迎えられ、校長先生から一人ひとりに卒業証書が手渡された卒業生。9年間の義務教育を終えた273人は卒業の喜びと恩師との別れをかみしめつつ、新しい進路への期待と不安を胸に、力強い一歩を踏み出していました。



↑涙をこらえながら、母校への想いを胸に大合唱でしめくった金田中の生徒たち。

↓水墨画ならではの濃淡や明暗を表現した、繊細な作品約200点が並んだ会場。



被 古屋禎子さんチャリティ個展
被災地の早期復興を絵画で支援

東日本大震災の復興支援に役立てようと、全国の公募展などで受賞歴を持つ水墨画指導者の古屋禎子さん(神崎)が、3月11日から16日まで田川市美術館でチャリティ個展を開きました。同個展は福島県の水墨画仲間との交流がきっかけで、古希を記念して初開催。期間中、約650人が会場に訪れ、販売した絵画の収益の一部を被災地への義援金として町に寄付しました。

幾 虎尾桜周辺整備
多のつぼみに満開への期待膨らむ

「虎尾桜を心配する世話人会」の会員6人による虎尾桜の周辺整備が3月16日に行われ、桜の周囲の雑木や下草の除去を行いました。昨年から数か所の枝枯れが報告されていて、今年の開花が心配されていましたが、この日例年より多いつぼみを確認。会員たちは「今年も多くのの人に雄大な桜の姿を見てもらおう」と、満開を願いながら孤高の古木をいたわっていました。



↑桜の生育環境を壊さないよう注意しながら、カマやノコギリを使って丁寧に整備。

↓民宿「すみか」にある石窯で、福智産の具材をトッピングしたピザを焼く参加者。



福 農家民宿モニターツアー
福智の魅力をもろごと味わう体験ツアー

観光地に欠かせない宿泊施設の育成を図り、観光地としての成熟度を高めることを目的とした「農家民宿モニターツアー」が、2月18日と19日に農家民宿「すみか」(弁城)で行われました。福岡市から招いたモニターは、福智産の具材を使った石窯ピザ作りや手打ち麺作り、上野焼作陶などを体験。ツアー後に回収したアンケートをもとに、福智の観光ツアーに磨きをかけていきます。

↓「大きくなってまた会おうね」と優しく声をかけながら、稚魚を川に放流する参加者たち(赤池中1年)。



川 さけの稚魚放流
と生命の尊さに触れる

川の環境保全意識を高めることが目的の「さけの稚魚の放流」が、町内を流れる彦山川で行われました。市場小前の河川敷では、3月8日に赤池中1年生約110人が保護者やひこさんがわ夢の会の会員とともにさけの稚魚約3千匹を放流。また、方城伊方大橋の高架下では、3月17日に方城中の生徒会や伊方小4年生約60人と町のボランティアグループらが約2千匹を放流しました。参加者たちは、4年後に再会できる日を思い浮かべながら稚魚の入ったバケツを優しく傾け、さけが遡上できる美しい川の保全を誓っていました。

福智町としょかん友の会主催「ビブリオバトル」
冊への想いを5分間にギュッと込めて

「地域活動スタートアップ講座」の受講生が立ち上げた「福智町としょかん友の会」の発足を記念した「ビブリオバトル」が2月23日に中央公民館で開かれました。田川市郡で初開催のイベントということもあり、町内だけでなく福岡市や北九州市からも読書愛好家が集まりました。イベント後も愛読書の話に花が咲き、参加した30人は本の知識と心の交流を深めていました。



↑おすすめの1冊を持ち寄り、5分間でその本の魅力を紹介し合う「ビブリオバトル」。

↓11分間の先行的めがけ、ローラー付きの円盤を投げる参加者(決勝トーナメント)。



優 カローリング大会決勝
優勝狙い放った一投に一喜一憂

町の恒例行事となった「カローリング大会」の決勝が3月2日に金田体育館で開催されました。125チーム500人が参加した予選を勝ち抜き、決勝への駒を進めた36チームの精鋭たちは、互いにチームワークと絶妙な技術を出し合い、熱戦を繰り広げていました。結果は次の通り。優勝:三区C(赤池)、2位:18区上桜(赤池)、3位:久六C(方城)、4位:めだかA(金田)